

相 続 ド ッ ク NEWS RELEASE 2026年9月号

池田税務会計事務所

〒300-0847

茨城県土浦市卸町1-1-1

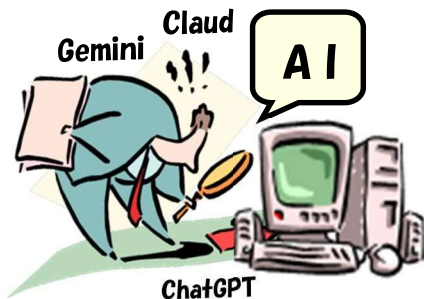
関鉄つくばビル2F

TEL : 029 (841) 4300 FAX : 029 (843) 2826

NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE NEWS RELEASE

AI格差が広がる前に知っておきたい今どき事情

AIが引き起こす新たな定義
意外に知らないAI業界
AI活用戦略、日本の現在地！



今や新聞やニュース報道でAIに関連する情報を目にしない日はありません。生成AIの登場以降、技術革新は急速に進み、私たちの働き方や生活は大きな転換期を迎えています。

今さら聞けないAIって

●なんでもチャッピーに聞く！

今年5月、読売巨人軍の阿部慎之助監督が暴行容疑で監督を辞任し、そのきっかけが長女の「ChatGPT」への相談だったことが注目を集めました。「ChatGPT」が公開されたのは2022年11月。わずか3年半の間に、広く若者に浸透していたことが露呈しました。

<ChatGPT (チャッピー) とは>

米Open AI社が提供する対話型AIで、チャッピーはその愛称。日本語圏のユーザーが「チャッピーに聞いてみた」等と使う。

●30年度から小学校でAI学習

最近の中高生は読書感想文や課題にAIの回答をそのまま使い、小学生が児童会選挙の演説をチャッピーに作らせた事例も。

AI時代の到来を受け、小学校段階から情報教育が大幅に拡充されることに。2030年度から小学校でAI学習が始まるもようです。

●AIセミナーは花盛り！



昨今、個人向けのAIセミナーが花盛りです。「AIで業務を効率化しよう」「AIで副業を始めよう」「AIで勝ち残ろう」といったキャッチコピーが溢れています。

<法人のAI研修なら助成金も>

社員の生成AIスキル習得を目的とした研修で会社の業務効率アップを目指すなら、厚生労働省の「人材開発支援助成金」制度も有効。企業のDX推進や新規事業展開にともなうリスクリング支援コース」などが対象に。

●そもそも生成AIって、なに？

生成AIとは、膨大なデータのパターンや関係性を学習し、その学習成果をもとに**新たなコンテンツ**を「生成」する人工知能（AI）です。

<生成AIと従来のAIの違い>

生成AI	従来のAI
学習した膨大なデータをもとに	
新たな文書・画像・動画・音声などコンテンツやアイデアを創造	作業を自動化・将来の出来事を予測

<生成AIで何ができる？>

●**テキスト生成**：文章の作成や要約、翻訳、レポート作成など、ビジネス文書の作成から企画の立案まで幅広く活用できる。

●**画像生成**：文章による説明をもとに、写真やイラストなどの画像を作成でき、プレゼン資料の作成や商品イメージの可視化に。

●**動画作成**：静止画像からの動画作成や文章の指示による短編動画を作成、マーケティング動画や教育用説明動画の作成。

●**音声生成**：入力した文章を自然な音声に変換できるものや、オリジナルの音楽を生成。ナレーション、BGM制作などに活用。

●最新の生成AIの勢力図は？

2026年現在、生成AIの世界はChatGPTの1強ではありません。用途に合わせて最適なAI

を使い分ける「AI戦国時代」に突入しています。かつて80%以上あったChatGPTのシェアは約65%まで分散しているようです。

＜生成AIの主なサービスの比較＞

サービス名	提供元	特徴
ChatGPT	OpenAI	最も使われているAIツール
Gemini	Google	リアルタイム検索が可能
Claude	Anthropic	日本語が自然で長文に強い
Microsoft Copilot	Microsoft	高性能GPT-4無料で使える

●できる人はもう使ってる?!

生成AIは例えるなら「優秀な新人アシスタントで、仕事が驚くほど早く、頼りになるが、時々うろ覚えも言う」とか。対話型ツールなので質問や指示の仕方がポイントになります。

＜プロンプトとは＞

IT分野では古くからある用語で「促す」「指示する」の意味。生成AIの領域ではAIに対して与える「指示や質問」のこと。その質や構成で出力結果が大きく左右される。質の低いプロンプトを与えるとAIの答えも低レベルに。

世界のAI事情と日本



●AI業界を理解する「4つの層」

AI関連ニュースでは聞いていても、意外と知らないAI業界の構造を見てみましょう。

アプリ	AIを組み込んだサービス提供	Palantir CrowdStrike
モデル開発	基幹モデルの開発を競う	OpenAI、Google Anthropic
クラウドインフラ	データセンターで支える	Amazon (AWS) Microsoft、Google
半導体	AIを支える演算装置	NVIDIA TSMC、AMD

●急成長と株価の急騰!



①第1層（土台）：半導体・チップ

全てのAIは最終的にはチップ（半導体）の上で動いています。NVIDIA（エヌビディア）は市場シェア80%で、TSMC（台湾）は世界の先端半導体の大半を製造。同社の株価（米市場）はこの2年半で、NVIDIAが265%、TSMCは325%と大きく飛躍しています。

②第2層：クラウドインフラ

第1層のチップを大量に買い込み、巨大なデータセンター（AIの計算を行う施設）を運営する会社。Googleは自社AIモデルGemini

を開発し、第2層と第3層両方持っており、株価も上昇。一方、MicrosoftはOpenAIへの依存が裏目に出て、2025年には四半期の同社への投資で31億ドルの損失、26年1月には約3,570億ドルの時価総額が消失。

③第3層：モデル開発

ChatGPTやClaudeなどのAIモデルを開発している会社。第2層のクラウドを借りてモデルを訓練している。



④第4層（最上層）：アプリケーション

AIを組み込んで実際のサービスを提供する会社。競争が激しく、勝ち組・負け組が明白。

●OpenAIの上場はいつ?

ChatGPTで注目のOpenAIが株式公開準備を進めていますが、現時点で米市場の上場日程とIPO（新規株式公開）の条件は公式確定していません。報道では26年後半から27年にかけての上場時期、最大1兆ドルの評価額、600億ドル以上の調達案が伝えられていますが。

●米国で成り立つ世界のAI?

＜指揮官不要のイラン攻撃＞

米国のイラン軍事作戦ではAIが本格的に使われた。衛星やドローンで集めた情報を解析して攻撃目標を絞り込むので、今や指揮官も不要に。どの標的から攻撃するか優先順位もAIが決めるのだとか。

AI業界の4層を見ると米国企業が7割以上のシェアを占めています。ビジネスから教育、戦争までAIはあらゆる分野で欠かせない存在に。西側諸国では中国製AIへの警戒心は強いものの、米国製は許容されています。だが、米国依存のリスクが浮上してきました。

●AI植民地化の現実が...

今年2月中旬、ドイツで開かれた安全保障セミナーで米国を念頭に次のような議論が。

＜独開催安全保障セミナーでの議論＞

- ◆AIは技術革新にとどまらず、世界の権力構造も変える。
- ◆AIを支配する企業や国家に膨大なデータ、知識、資本が吸い上げられ「植民地化」へ
- ◆アルゴリズムの透明性を高めるなど、AIを監視、制御できる仕組み作りが急務に。

●日本は「AI赤字国」に!

スイスのビジネススクールIMDの「世界デジタル競争力ランキング」によると、日本は通信技術や技術開発を促す資金調達などの技術力で69カ国・地域で27位。G7最低のイタリア（47位）に次いで低い結果に。現状、

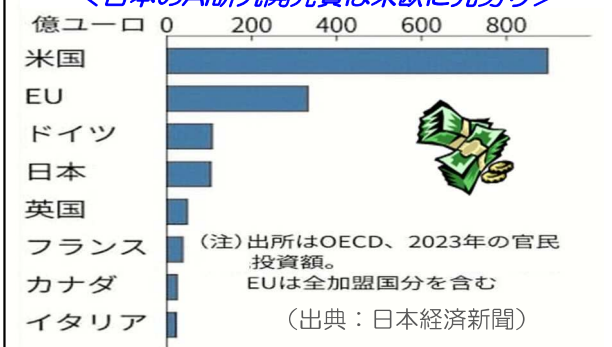
年6兆円超のデジタル赤字に陥る日本はこのままでは「AI赤字国になる」という声も。

＜日本の技術力は69カ国・地域で27位＞

1位	米国	7位	スイス
2	シンガポール	8	アイスランド
3	香港	9	カナダ
4	オランダ	10	スウェーデン
5	デンマーク	27	日本
6	アラブ首長国連邦	47	イタリア

●日本の投資額、EUの3割？

＜日本のAI研究開発費は米欧に見劣り＞

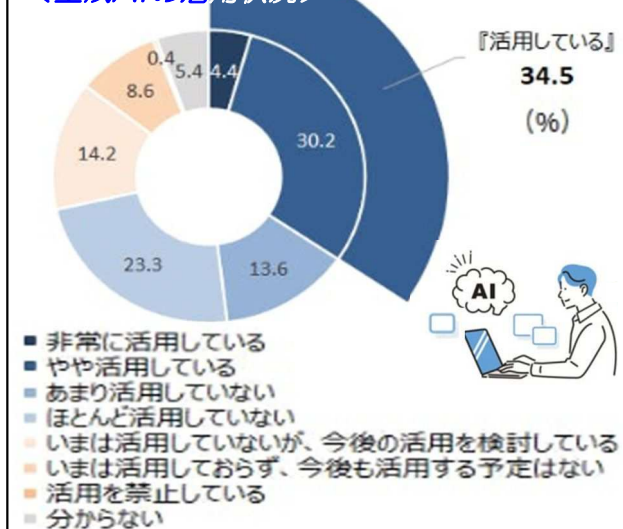


AI戦略日本の現在地

●3社に1社が業務に導入済み！

ここ1～2年で企業の生成AIへの導入率が急速に伸びています。帝国データバンクの調べでは導入済みの企業が34.5%。活用企業では「業務への効果が出ている」が86%に。

＜生成AIの活用状況＞



●「文章の作成・要約・校正」が45.1%

主な活用業務は「文章の作成・要約・校正」が最も多く45.1%、次いで「情報収集」21.8%、

「企画立案のアイデア出し」11.0%でした。

＜企業の具体的な活用例＞

●契約書の確認（製造、中小企業） ●議事録作成（医療・福祉、大企業） ●プレゼン資料、メール返信等（機械・器具卸、小規模企業）
単一用途だけでなく、複合的に活用している企業も少なくないことが分かった。

●景気指数上昇、AI需要が底上げ

内閣府の今月7日発表の景気動向指数は2ヵ月連続上昇、18年10月以来の高水準に。AIブームを背景に半導体製造装置の需要の強さを反映しています。

＜AI巨額投資の恩恵が広がる＞

米テック大手による巨額のAI投資の恩恵がさまざまな産業に広がっている。半導体関連の大手6社（キオクシア・東芝・铠武・アドバンスト等）の今年4～6月期の純利益は合計1兆2,375億円でトヨタに迫る勢い。データセンター向けの需要急拡大の村田製作所は6割増。

●今、注目のデータセンター！

AIブームを背景に大量のデータ処理に特化したデータセンター建設の機運も高まっています。現時点で日本で稼働中のデータセンターは210拠点と世界全体では3%とか。

＜UAEが投資、ソフトバンクも14兆円＞

日米企業や秋田県・市が秋田市に日本最大級のAI向けデータセンターを建設予定。UAE（アラブ首長国連合）などが投資する方向で協議中、整備費は2兆円。ソフトバンクグループはフランスで最大14兆円を投じてデータセンターを建設予定、受電容量で欧州最大に。

●AI活用をめぐる最近の話題

銀行新卒採用5年ぶり減少	27年度採用数が減少に。背景にはAI活用による業務効率化が。
経営コンサル倒産・廃業	基礎的な調査や汎用的な研修コンテンツはAIによる代替進む。
国税庁も税務調査に活用	税務調査にAIを活用して追徴税額の過去最高額を更新
自衛隊にAIドローン	安保関連文書にAI活用を明記。ボーイングはドローンを提案
NEC：AIのみ無人部署	自律的に業務を推進するAIエージェントが業務自動化を推進
日立製作所考える工場	生産ラインの不具合を自動修正するAIを27年度をめどに導入
麒麟HD会議にAI役員	役員の仮想人格をAIに読み込ませ、役員会での経営判断に活用
三菱DFJ銀行AI行員	AIエージェント「AI行員」を今年1月から20分野で導入開始